

◆参加方法◆

1. 参加費

	8月28日(金)				8月29日(土)	合計
	第1講座	第2講座	交流会	宿泊 (朝食含)	第3講座 被災地視察	
大人	2,500	2,500	6,500	8,000	8,500	28,000
学生	1,250	1,250	6,500	8,000	5,000	22,000

* 29日の第3講座への参加はバスの先行予約が必須です(定員90名)。マイカーでの同行は出来ません。

* 第3講座申し込み者のみ通過できる区域がありますので、注意して下さい。

* 1講座毎に参加出来ますが、講座参加者のご家族以外は宿泊だけの参加は出来ません。

2. 申し込み方法

参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメール(添付)にて送信してください。

(参加申込書は、お一人様ずつご記入ください。)

お申込みいただいた方には、スタッフより確認の連絡をさせていただきます。

3. 参加費のお支払い

7月31日(金)までにお振り込みをお願いします。手数料はご負担ください。

* 郵便払込「払込取扱票(青線の用紙)」00180-1-132761(右寄せ)

加入者名) 新建築家技術者集団

(ゆうちょ口座をお持ちの方で、ATMでのお振り込みの場合、

「記号001801 番号132761」を入力し、お振り込みいただくと同振込手数料がかかります。)

* 銀行振込 みずほ銀行 新宿新副都心店 普通3914020

名 義) 新建築家技術者集団

* なお、現金書留でお支払いの方は、期日までに届くようにご郵送ください。

4. 施設

《会場》福島市アクティブシニアセンター「アオウゼ」 福島市曾根田町1-18
福島駅より徒歩4分
いわき市勤労福祉会館 いわき市平字堂ノ前22番地

《宿泊》グランパークホテルエクセル福島恵比寿 福島市曾根田町10-6
福島駅より徒歩4分

5. 申し込み・問い合わせ先

新建築家技術者集団 全国事務局 建築とまちづくりセミナー 実行委員会(担当:山下千佳)
〒162-0811 東京都新宿区水道町2-8 長島ビル2階
TEL: 03-3260-9800 FAX: 03-3260-9811
E-mail: shinken@tokyo.email.ne.jp HP: http://www.shinken-nuae.org/

6. 申し込み締切・申し込み期日

7月31日(金) 定員になり次第、申込みを締め切らせて頂きます。
お早めにお申し込みください。

7. 主催

新建築家技術者集団
セミナー実行委員長: 三浦 史郎(東京支部)
代表幹事: 本多 昭一(京都府立大学名誉教授)、三沢 浩(建築家)、
垂水 英司(前兵庫建築士会長)、中島 明子(和洋女子大学教授)
全国幹事会議長: 山本 厚生(建築家)
全国事務局長: 川本 雅樹(建築家)

原発事故で失われた『生活・まち』ふくしま ～原発ゼロをめざして～



線量高く、今もなおこの様子—

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地震と津波の複合災害で東日本各地に大きな被害を及ぼした。同時に起きた原発災害は日本のみならず世界中に大きな衝撃を与えた。将に未曾有の災害であり、その被害は現在も進行中である。全体に復旧・復興は被災者の期待からは大きく遅れ、未だに住まい・生業の見通しを持ってない世帯も多いのが現状なのに、被害補償打ち切りの話も出ている。

建築とまちづくりセミナーでは、これまで国土を荒廃から守り、人びとの願う豊かな生活環境を創造する目的で、住む人使う人と協同して進めることを新建の憲章に即して、住まい・建築単体からまちづくりまで、市民との協同で進める理論と実践を継承・発展させるテーマで続けてきた。

今年は東日本大震災・原発事故の5年目を迎えた福島で講座とバス視察を行う。セミナーは、原発事故の総体を知るところから、「失われた生活・まち」を把握することで、改めて生活の場「まち」のなりたちを探り、復興に長期間を要する現地の状況を共有しながら、教訓を引き出して全国に発信し、原発を断つ運動に繋げていくことをテーマとして考えた。

8月28日(金)

受付 13:00 アクティブシニアセンター A O Z「アオウゼ」
開校式 14:00
第1講座 14:15 「原発震災～原発被害の総体～」
第2講座 16:00 「原発被災地における復興計画」
交流会 19:00 グランパークホテルエクセル福島恵比寿

校長 鈴木 浩 氏
講師 伊東 達也 氏
講師 間野 博 氏

8月29日(土)

第3講座 8:30 バス視察: 南相馬市→浪江町→富岡町→いわき市
10:30 「原発事故以来の私達 ～仮設に暮らす日々～」
16:00 セミナーまとめ・アピール採択

案内 後藤 剛志 氏
講師 小沢 是寛 氏

@いわき市勤労福祉会館

8月30日(日) フリープラン

主催 新建築家技術者集団
後援 災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会

◆セミナー内容◆

校長：鈴木 浩 福島大学名誉教授 明治大学大学院新領域創造専攻客員教授 日本住宅会議理事
すずき ひろし

福島県復興ビジョン検討委員会座長、同復興計画策定委員長、宮城県女川町復興計画策定委員長、福島県浪江町復興計画委員長、福島県双葉町復興まちづくり委員会副委員長など東日本大震災後は被災各地の復興まちづくりに尽力し、2015年国連防災世界会議 in 福島・実行委員会代表を務めた。

■第1講座 28日(金) 14:15～15:45

講座名「原発震災～原発被害の総体～」

講師：伊東 達也 原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員 浜通り医療生協理事長 元福島県議
いとう たつや

福島原発事故がもたらした惨状を①深刻被害、②広範囲被害、③被害額極大、④長時間復旧・復興、の点から「日本史上、最大にして最悪の公害」と指摘。課題の中でも急を要する再建の大前提として、①事故収束・廃炉見通し確立、②低線量被曝の健康診断・検査・医療継続の保障、③偏見・差別を広げない為の学校教育、社会教育の促進、④原発労働者の賃金・労働条件、健康管理の改善、⑤県内全原発10基の廃炉、を主張し活動している。

■第2講座 28日(金) 16:00～17:45

講座名「原発被災地における復興計画」

講師：間野 博 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員 県立広島大学名誉教授 工学博士
まの ひろし

チェルノブイリ事故と同等以上といわれる東電・福島第一原子力発電所の事故は、国際評価尺度でレベル7で、特に原子炉や建屋が損傷して、敷地内外へ放射性物質が放出された。困難を乗り越えて被災地を復旧・復興させ、域外の人々が「行ってみたい」「住んでみたい」と思える地域にする強い意志を持って立ち上がりとしている「Fukushima」の人々と力を合わせて福島県や関係自治体等とも協力しながら、未来を切り開く新しい地域づくりのビジョンと方途を提案する役割を担って活動を続けている。

■第3講座 バス視察 (右記参照)

29日(土) 8:30～16:00

案内：後藤 剛志 福島生協労働組合書記長
ごとう つよし

講座名「原発事故以来の私達 ～仮設に暮らす日々～」

講師：小沢 是寛 浪江まち物語つたえ隊 元浪江町仮設住宅自治会長 一級建築士
おざわ よしひろ

被災した浪江町民の絆を守りたい、と故郷の民話を掘り起こし、地名や祭りを題材にした紙芝居を製作して、仮設住宅などで発表している。「紙芝居がある限り、町民の古里への思いが薄れることはない」。長引く避難生活で帰還を諦める人も出始める中、誰もが耳にした民話で、故郷を離れた町民の心をつなぐ活動をしている。

■セミナーまとめ・アピール採択 ～17:30 (いわき市にて)



□バス視察 コース案内

- 8:30 福島市
↓
川俣町 (車窓から)
- ↓
飯館村 人のいないまち (車窓から)
- ↓
10:30 南相馬市
(南相馬市立中央図書館にて)
- 11:45 昼食 (弁当)
- 12:30 出発
↓
浪江町
↓
富岡町
↓
16:00 いわき市
- 17:30 解散
※バスは福島まで戻りますので、乗って戻ることも可能です。

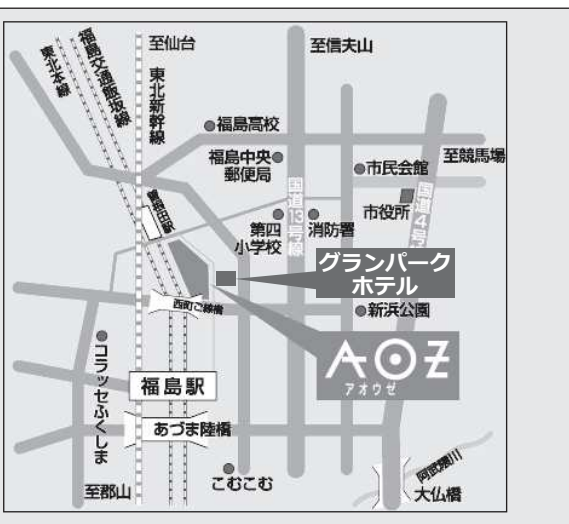
※ 放射線量は、視察行程9時間の各地の放射線量累積で約5～6μsv程で(当日は実際の積算数値を測定します)、飲食など合わせて9～10μsv程度と略算されます。人は年間2mSv(2000μsv)程度被曝していると言われます。
※※現地の状況によって経路が多少変更になることもあります。

◆会場
アクティブシニアセンター Aoz「アオウゼ」
〒960-8051 福島市曾根田町 1-18 MAX ふくしま 4階
電話：024-533-2344

◆宿泊
グランパークホテルエクセル福島恵比須
〒960-8051 福島市曾根田町 10-6
電話：024-533-4166

◇交通
福島駅東口より徒歩4分
福島交通飯坂線・曾根田駅より徒歩1分

◇駐車場
約1000台 2時間無料、以降100円/30分
※ホテル宿泊の場合、ホテルにて500円/日



□30日(日) フリープラン (パンフレット配布予定)

- ①福島市内 (県教育会館・県立美術館・福島新町協会、他)
- ②福島 - 奥土湯温泉 (地熱発電所)
- ③福島 - 郡山市内 (市立美術館・市公会堂・県産業交流館・安積疎水館、他)
- ④福島 - 三春 (三春交流館・歴史民俗資料館・三春ダム管理所・街並みづくり、他)
- ⑤福島 - 会津若松市 (県博物館・さざえ堂・御薬堂・茶室麟閣・木造仮設住宅、他)